



TITLE:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 151

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 151. 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 1965, 151: 51-56

ISSUE DATE:

1965-04-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186887>

RIGHT:

水族館月報

No. 151

1965年3月

3月の入場者数

一 般		団 体		有料合計	特別観覧
大 人	小 人	大 人	小 人		
79,296	3,812	28,792	2,539	114,789	768

前年度比	1964	1965	増 減
入場者数	114,175	114,789	+ 614

水族館記事

- ◎ 7日 エンゼル熱帯魚店より、熱帯魚7種45個体と共に、トウアカクマノミ（全長4～5cm）5個体が入槽。
これでクマノミ類のコレクションは5種（クマノミ、ハマ、モンツキ、ハナビラ、トウアカ）となった。
- ◎ 10日 雑賀崎一本釣漁師よりヒラマサ（全長65cm、5kg）が入槽、H水槽へ収容したが、体表の「すれ」が悪化し、15日に死亡。
同時に入槽したエビスダイは元気で、月末までに餌付けに成功した。
- ◎ 11日 これまで、餌料には主にアジの鮮魚を用い、町内の小売商より購入していたが、小売商では定常的な納品ができないことがたびたびあり（アジがない場合にカツオやサバで代替したり、荒天が続くと品切れになったりする）、最近それが目立ってきたので、餌料の質はやゝ低下するが、確実に入荷することを重視して、漁業組合より冷凍小アジを購入することにした。

- ◎ 17日 北浜地引網よりウミテング（全長9.5cm）1個体が入槽したが、体表の「すれ」が甚しく、19日に死亡した。
- ◎ 29日 T-6水槽のマツダイ（昨年9月採集）は、17cmに成長し卓上水槽では狭くなったので、B水槽へ移収した。
- ◎ 30日 チリー大学海洋研究所の研究船々長レジエス氏来所。
水族館の展示動物ではアカクラゲ、カブトガニ、タカアンガニを特に感心していた。
同研究所にも水族室があるが、給排水の配管にはまだ鉛管を使用している（チリーでは、まだ塩化ビニール製品は極めて高価である）とのことである。
- ◎ 3月の動物入手概況

1. 採集作業

日 時	採 集 場 所	方 法	人 員	主な目的動物
8日午後	塔 島	タイドプール採集	1	ギンユゴイ
9日 "	南浜防波堤附近	磯 採 集	1	イソギンチャク類
11日 "	動物園下磯	"	2	巻貝、ウミウシ類
15日 "	塔島東水道	SCUBA	2	ウミトサカ類
23日 "	江津良磯	磯 採 集	2	エビ、カニ類
27日 "	円月島西側	SCUBA	2	ハナミノカサゴ
30日 "	江津良磯	磯 採 集	4	潮間帯の動物一般
31日 "	塔島東～かなとこ	SCUBA	3	岩礁の小魚類

3月は海中の景観が最もさびしい月である。

先月まで見られた、ハタタテダイ、ツノダン等の熱帯性魚類も、ほとんど姿を消した。

磯採集にはかなり念を入れたのにもかかわらず、春の賑いのウミウシ類が意外に少数しか採集できなかった。

主な採集動物名（☆印は1962年4月1日以降はじめての入槽動物）

無脊椎動物： オキクラゲ、アカクラゲ、ベニウミトサカ、オオトゲトサカ、ヨロイイソギンチャク、アカシマモエビ、フタミゾテッポウエビ、イソカニダマシ、ヒライソガニ、イボショウジンガニ、☆ケハダヒザラガイ、☆ヒメヨウラク、イソアワモチ、ミドリアメフラシ、ヒメコノハミドリガイ、フウセンウミウシ、ガーベラミノウミウシ、☆シラトリモドキ、☆ゴマフクモヒトデ。

魚 類： ムギイワシ、ハタンボ、キンセンイシモチ、ギンユゴイ、ウイゴンベイ、キヌバリ、ホンソメワケベラ、クマノミ、ツマジロモンガラ、アミメハギ、ハナミノカサゴ。

2. 購入

春のタイ釣りシーズンに入り、雑賀崎一本釣漁師からの入槽が増えてきたが、漁場（白浜沖約10Km、水深120m前後）の関係で魚種（下記○印）は限定されている。

また、この月末より、江川のエビ漕網漁が始まり、30日にそのオ1陣が入槽した。

主な購入動物名

無脊椎動物： ゴシキエビ、ゾウリエビ、タカアシガニ、キンチャクガイ、☆アワスダレ、テナガダコ、ヒトデ、ヤツデスナヒトデ、マボヤ。

魚 類： スマトラ、サンタマリア、エンゼルフィッシュ、（以上淡水魚）、マツカサウオ、エビスダイ、○アカアマダイ、○チカメキントキ、☆ヒラマサ、○マダイ、ミシマオコゼ、トウアカクマノミ、○シマフグ、○アヤマカサゴ、○ホウボウ、○ガンゾウビラメ、セトウシノシタ、ウミテング。

◎ 飼育概況

J水槽の磯魚の白点病は、先月にひき続き、いぜん駆除できず、E水槽のエビスダイに発生したものも、慢性化の傾向にある。

そのほか、№23、T-1、T-6の各槽にも発生したが、これらは早期に治療できた。

この冬が暖かったため、昨秋の採集動物をかなり多く維持できたことと、今月に入って、磯採集により、潮間帯の小動物が増えたため、無脊椎動物のコレクションは、これまでの最高（265種）を記録した。

3月31日現在、飼育中の動物は、総計509種3,680個体以上で、その内訳は次の通り。

このうち、観覧水槽に飼育、展示中の動物は482種3,330個体以上。

カイメン類 1種 1個体	ゴカイ類 6種 9個体	イカ類 2種 2個体
ヒドロ虫類 2〃 17〃	カブトガニ類 1〃 2〃	タコ類 4〃 12〃
ハチクラゲ類 1〃 6〃	フジツボ カメノテ類 4〃 151〃	ウミシダ類 5〃 12〃
ウミトサカ類 8〃 26〃	エビ類 17〃 232〃	ヒトデ類 8〃 138〃
ヤギ類 9〃 55〃	シヤコ類 2〃 2〃	クモヒトデ類 4〃 10〃
ウミエラ類 1〃 4〃	ヤドカリ類 12〃 176〃	ウニ類 14〃 134〃
イソギンチャク類 10〃 136〃	カニ類 41〃 133〃	ナマコ類 6〃 54〃
イシサンゴ類 13〃 83〃	アメフラシ類 16〃 37〃	ホヤ類 6〃 45〃
ツノサンゴ類 2〃 3〃	二枚貝類 19〃 425〃	軟骨魚類 10〃 45〃
ハナギンチャク類 1〃 13〃	巻貝類 46〃 521〃	硬骨魚類 231 1152
ホウキムシ類 ー〃 ー〃	ヒザラガイ類 4〃 18〃	カメ類 3〃 27〃

資 料

1. 3月の気象（午前9時観測）

才1水槽室（水温・比重はNo.24水槽）

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：27	8	8	11
室温（ $^{\circ}\text{C}$ ）	$\frac{9.0 \sim 11.2}{10.3}$	$\frac{9.8 \sim 14.6}{11.5}$	$\frac{10.7 \sim 14.0}{12.3}$
水温（ $^{\circ}\text{C}$ ）	$\frac{12.3 \sim 15.2}{15.0}$	$\frac{13.0 \sim 14.8}{14.2}$	$\frac{13.1 \sim 14.8}{14.1}$
比重（ 15°C ）	$\frac{25.54 \sim 26.57}{25.85}$	$\frac{25.28 \sim 25.92}{25.71}$	$\frac{25.39 \sim 25.78}{25.65}$

才3水槽室（水温）

H水槽（ $^{\circ}\text{C}$ ）	$\frac{21.9 \sim 22.7}{22.1}$	$\frac{16.0 \sim 22.6}{20.3}$	$\frac{20.0 \sim 21.0}{20.6}$
T-8水槽（ $^{\circ}\text{C}$ ）	$\frac{13.7 \sim 15.6}{14.3}$	$\frac{13.8 \sim 15.1}{14.6}$	$\frac{13.7 \sim 15.3}{14.4}$

海水取入口

水温（ $^{\circ}\text{C}$ ）	$\frac{13.8 \sim 15.9}{14.8}$	$\frac{13.2 \sim 15.3}{14.6}$	$\frac{13.3 \sim 15.3}{14.6}$
比重（ 15°C ）	$\frac{25.75 \sim 25.99}{25.83}$	$\frac{25.29 \sim 25.89}{25.76}$	$\frac{25.53 \sim 25.85}{25.75}$

2. 昭和39年度中の飼育動物総数

本年度中に飼育した全動物は、無脊椎動物493種13,742個体以上、魚類447種10,230個体、爬虫類3種151個体、合計943種24,163個体以上で、その内訳は次の通りである。

カイメン類 3種 28個体	ウズムシ類 1種 2個体	イカ類 9種 129個体
ヒドロ虫類 8" 109 "	ゴカイ類 10" 334 "	タコ類 6" 141 "
ハチクラゲ類 8" 48 "	フジツボ類 8" 2619個体以上 カメノデ	ホウキムシ類 1" 4 "
コエダ類 1" 1群体	シヤコ類 5" 298個体	ウミシダ類 7" 71 "
ウミトサカ類 11" 117 "	エビ類 27" 1161 "	ヒトデ類 13" 343 "
ヤギ類 11" 188 "	ヤドカリ類 21" 504 "	クモヒトデ類 10" 47 "
ウミエラ類 2" 18 "	カニ類 78" 3560 "	ウニ類 24" 442 "
イソギンチャク類 13" 270個体	カブトガニ類 1" 7 "	ナマコ類 8" 138 "
イシサンゴ類 14" 102群体	ヒザラガイ類 6" 48 "	ホヤ類 9" 256 "
ツノサンゴ類 2" 5 "	巻貝類 86" 1661 "	軟骨魚類 20" 196 "
ハナギンチャク類 1" 14個体	ウミウシ類 48" 342 "	硬骨魚類 427" 10,034 "
クシクラゲ類 1" 5 "	二枚貝類 41" 776 "	爬虫類 3" 151 "

なお、個々の種名は、日本動物園水族館協会年報・飼育動物一覧表に報告してあるので、本報には再録しない。

3. 昭和39年度月別飼育動物数一覧表

月	無脊椎動物		魚類		爬虫類		合計	
	種	個体	種	個体	種	個体	種	個体
4	225	2380	197	1426	3	18	425	3824
5	249	2229	224	1402	3	15	476	3646
6	242	2583	240	1546	3	15	485	4144
7	247	2279	236	1577	3	17	486	3873
8	233	1714	235	1250	3	126	471	3090
9	211	1691	232	1074	3	93	446	2858
10	211	1844	255	1502	3	42	469	3388
11	259	2508	273	1637	3	32	535	4177
12	246	2365	258	1437	3	31	507	3833
1	246	2171	259	1404	3	29	508	3604
2	247	2096	244	1318	3	28	494	3442
3	265	2457	241	1197	3	27	509	3681
平均	240	2193	241	1398	3	39	484	3630

4. 昭和39年度月別入場者数一覧表

月	一般		団体		有料合計	特別観覧
	大人	小人	大人	小人		
4	71783	3080	18677	2103	95643	650
5	65655	840	24040	2040	92575	832
6	33715	456	15292	121	49584	475
7	33809	2412	9892	9560	55673	924
8	59860	10005	6914	3325	80104	580
9	29688	427	12812	145	43072	342
10	59276	448	19139	7235	86783	685
11	65487	980	24926	1540	92933	577
12	25537	548	6889	0	32974	141
1	55596	3124	6243	0	64963	143
2	56945	721	18507	220	76393	380
3	79296	3812	28792	2889	114789	768
計	636647	26853	192123	29178	884801	6497

昭和41年4月15日(第151)

編集兼発行者 市川 衛

発行所 京都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話(白浜)2047.3515